

本学英語教育一体系化・リソース化・可視化の試み

外国語学部英米学科
宮浦 国江
kmiyaura@for.aichi-pu.ac.jp

1. 背景・経緯

1.1 平成19年度 理事長特別研究費

「新英米学科による英語教育一体系化・リソース化・可視化の試み」

1.2 平成20年度 理事長特別研究費

高等言語教育研究所英語部門の活動として
「英語空間創設プログラム」

2. 活動内容

2.1 英語科目(英米学科専門英語科目・全学英語科目)の体系化・リソース化

2.2 全学英語教育拡充に向けて一可視化の試み

2.3 平成21年度新体制に向けて

2.3.1 全学英語科目実施体制づくり

2.3.2 CASEC(コンピュータによる英語コミュニケーション能力テスト)

2.4 英語科目担当教員の集いと情報・問題意識の共有化

2.5 大学英語教育関連学会・他大学からの示唆

3. 今後の課題

1. 背景・経緯

1.1 「新英米学科による英語教育一体系化・リソース化・可視化の試み」

・平成21年度 英米学科・英文学科の合併

三層の英語教育に責任、それぞれに課題あり

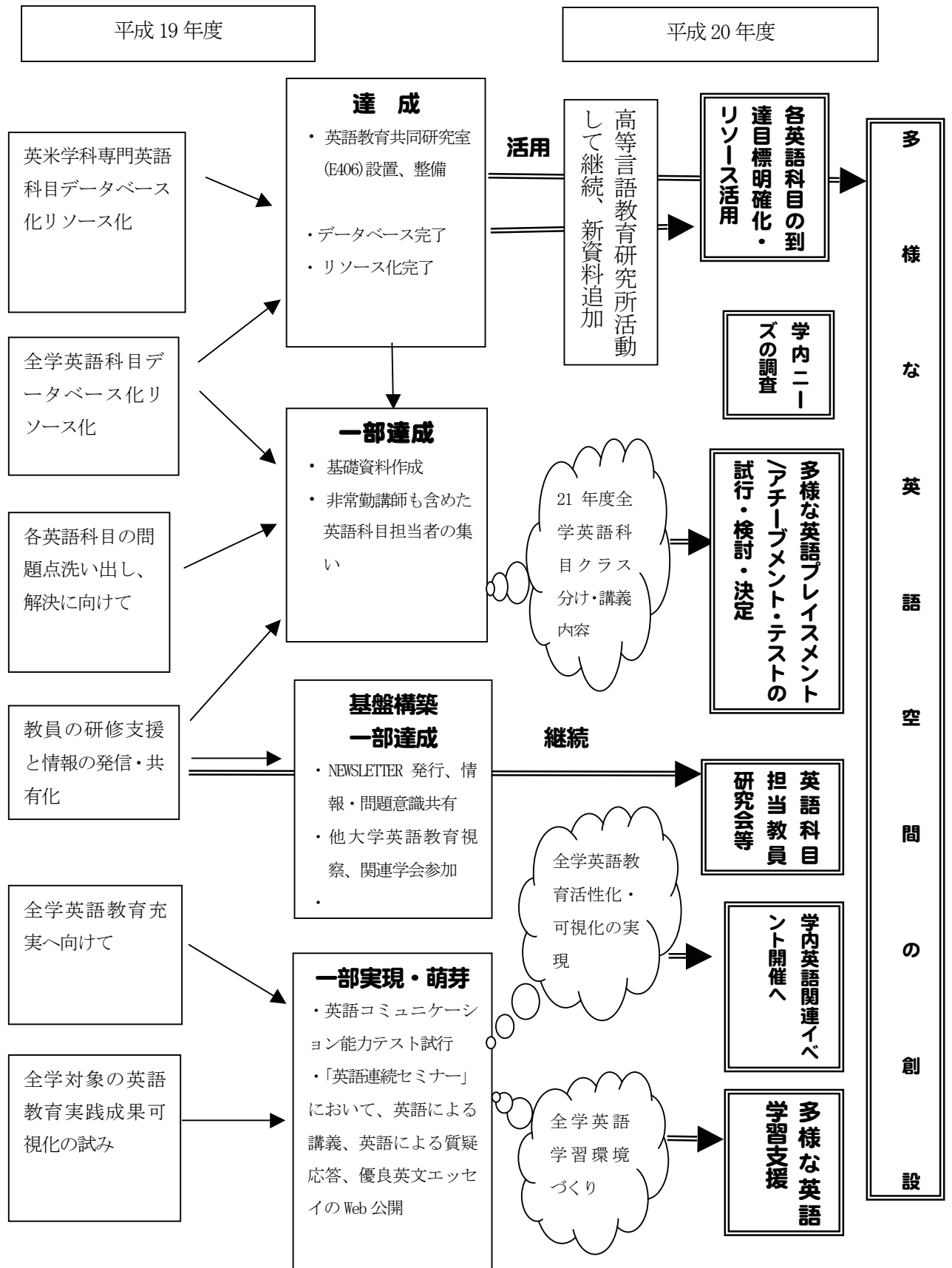
英米学科専門英語科目

外国語学部他学科向け英語科目

他学部向け英語科目

・中期目標・中期計画に「全学英語教育の充実」

本取組概念図



1.2 「英語空間創設プログラム」

- ・「新英米学科」と「国際関係学科」
- ・高等言語教育研究所設立 英語部門として
- ・教育 GP 申請「探求力・発信力を英語卒論に結実させる教育」

2. 活動内容

2.1 英語科目(英米学科専門英語科目・全学英语科目)の体系化・リソース化

- ・E406 英語教育共同研究室
- ・「英米学科専門英語科目」「全学英语科目」
- ・「シラバス・データベース」2003 年度分から 2008 年度分まで
- ・使用テキスト・教材の現物保管 → 教材の再活用、精選
- ・「授業内容・データベース」
教授者コメント「典型的な授業進行(90 分の時間配分)」「教育効果/学生の反応」「改善点」
→ 実質的 FD 活動、授業改善、
到達目標設定、共通シラバス、カリキュラム見直し

2.2 全学英语教育拡充に向けて---可視化の試み

- ・特別講義「グローバルな視野とコミュニケーションのための英語連続セミナー」
英文エッセイ Web 公開
- ・アメリカ大使館主催「国際教育週間日米学生テレビ会議」(2007.11.16)
- ・学生自主企画研究
- ・多言語競演レシテーション大会(2008.11.2 開催)

2.3 平成 21 年度新体制に向けて

2.3.1 全学英语科目実施体制づくり

- ・①外国語学部 200 人 6 クラス
(1 年生は月曜 1 限と木曜 2 限、2 年生は月曜 2 限と木曜 1 限)
- ・②他 4 学部 370 人 11 クラス(金曜)、3 学部 280 人 8 クラス(火曜)
(1 年生は火曜 2 限と金曜 1 限、2 年生は火曜 1 限と金曜 2 限)
- ・35 人クラス
- ・習熟度、関心に応じて
- ・English for Interaction と English for Academic Studies

2.3.2 CASEC(コンピュータによる英語コミュニケーション能力テスト)

- ・平成 21 年度からクラス分けのためのプレイスメント・テスト必要
- ・各種プレイスメント・テスト比較

	試験 時間 (分)	形 式	内 容	実 施 時 期	実 施 場 所	採 点 期 間 (日)	結 果 表 示	受 験 料 (TOEFL 以外は円)	
								個 人	団 体
TOEIC	120	P M	リスニング リーディング	年 8 回	77	30	10 -990	5565	@5565 入 50 万 年 10 万

TOEIC-IP	120			随時	団体	7		4040	@2990 入 50 万 年 10 万
TOEFL	210	P	リスニング リーディング ライティング 文法	地域 別	10	28	310- 677	\$130	
TOEFL-CBT	210- 240	C		随時	4	12 - 35	0 - 300	\$130	
英検	80 -165	P	語彙・熟語・文法力 読解力 作文力 聴解力	年 3 回	300	21	5 級 - 1 級	1400 - 7500	
GTEC	80	C	リスニング リーディング ライティング スピーキング	随時	69	10	0 - 1000	12600	9450
CASEC	40 -60	C	語彙 イディオム リスニング ディクテーション	随時	自宅 大学	即時	0 - 1000	3500	@1890 - @3200

・ CASEC 試用結果 (H19 年度研究費から 35 万円(120 回分))

		平均点 /1,000 点
2008 年 1 月	英米学科 1 年昼全員 45 人	682
2008 年 1 月	英米学科 1 年夜全員 28 人	656
2008 年 2 月	全学有志 35 名	646
2008 年 4 月	英米学科 1 年昼全員 44 人	645
2008 年 4 月	英米学科 1 年夜全員 32 人	613
2008 年 5 月	英語科目担当者 50 人の内、約 25 人受験	

参考データ

CASEC (2001 年 1 月 1 日-2007 年 2 月 28 日 累計受験者数:402,595 人のデータ)
(累計受験者数は 2008 年 2 月末で 511,228 人)

	Sec. 1	Sec. 2	Sec. 3	Sec. 4	Tatal
平均	110.4	108.1	120.8	99.5	438.8
企業	142.3	136.4	145.1	122.5	546.4
大学	120.9	117.0	122.3	108.4	468.7
中高	68.6	71.6	98.7	67.6	306.6

- ・ 2008 年 7 月から 2009 年 7 月まで一年間全学「使い放題」可能 (導入検討制度を利用、20 年度研究費から 84 万円)
- ・ 2008 年 7 月一般教育英語科目 1 年、2 年生向け全クラス
教員を通じて「お知らせ、CASEC 紹介、受験要領」を配布、
7 月中の全員受験を依頼
- ・ 全学的には、学内ポスター、学務課カウンターにポスターと「お知らせ、CASEC 紹介、受験要領」
- ・ 夏休みに中に現状把握・分析

学科学年別受験者数

		昼間主コース					夜間主コース				
		1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
文学部	国文	38	5	0	0	43	12	3	0	0	15
	英文	0	0	0	0	0	1	1	1	0	3
	日文	32	6	0	0	38	3	5	0	0	8
	児教	27	15	0	0	42	0	2	0	0	2
	社福	36	8	0	1	45	0	7	0	0	7
外国語学部	英米	26	3	1	0	30	17	4	1	0	22
	フランス	24	20	0	2	46	0	3	0	0	3
	スペイン	34	13	1	0	48	0	0	0	0	0
	ドイツ	31	1	0	0	32	0	3	0	0	3
	中国	7	19	0	1	27	1	3	0	0	4
情報	システム	30	1	0	1	31					
	地域情報	14	6	0	3	23					
大学院		2	0	0	0	2					
		301	97	2	7	407	34	31	2	0	67

学科学年別平均点

		昼間主コース					夜間主コース				
		1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
文学部	国文	539.3	451.6				525	453.7			
	英文						629	690	678		
	日文	551.6	579.7				575.7	525.4			
	児教	542.5	583.6					546			
	社福	553.6	534.8		469			492.1			
外国語学部	英米	666.6	725.7	763			640.6	741.8	797		
	フランス	595.5	622.8		653.5			585.7			
	スペイン	608.7	620.8	625							
	ドイツ	617.4	521					614.3			
	中国	633.9	635.2		447		805	620.7			
情報	システム	513.1	500		744						
	地域情報	503.2	502.8		443.3						
大学院		501									

2.4 英語科目担当教員の集いと情報・問題意識の共有化

- ・英文学科・英米学科教員
- ・専任・非常勤講師による英語科目担当者の集い
英米学科専門英語科目(2008.2.18)(英文3、英米6、非常勤10、計19人)
全学英语科目(2008,2,19)(英文2、英米7、非常勤11、計20人)
両日とも10時30分から14時30分まで、ランチも懇談会を兼ねて。
- ・ **NEWSLETTER**
- ・ 2学科合同会議
- ・ E406 英語教育共同研究室で定期的会合

2.5 大学英語教育関連学会・他大学からの示唆

- ・「多言語教育」(京都外国語大学「ティームティーチングによる二言語同時学習」)
- ・「ポートフォリオ」学生の英語学習の記録
- ・「学習支援」 e-Learning の是非
- ・「CAN DO リスト」科目別、学年別到達目標の明確化
- ・「英語で行う授業」専門科目・全学科目(大阪女学院大学、創価大学等)
- ・「英語空間」英語のみ使用の空間、多読用教材、DVD など(南山大学 WORLD PLAZA)
- ・「国際交流」協定校との交換留学

3. 課題!

3.1 来年度からの全学英语教育

- ・共通テキスト
英語による英語教育
到達目標の設定、
学内ニーズ調査

3.2 英米学科専門英語教育

- ・到達目標設定
- ・新科目の内容

3.2 英語空間の創設

- ・多読用図書の貸し出し
- ・図書館との連携

3.3 CASEC の活用

- ・学内での定期的一斉受験
- ・授業との連関

3.4 問題意識と情報の共有化

For a Better English Education at APU